

# 策定プロセス訪問調査事例

石川県小松市

## 大阪府担当事例調査の報告

### 1. 小松市概要

- ・人口108,900面積371.13km<sup>2</sup> 出生1,119人
- ・日本海岸から山間地まで広範囲に集落が点在。自然に恵まれる。
- ・小松空港、JR小松駅、北陸自動車道等交通アクセスが整っている。
- ・医療機関が多く、医療を受けやすい環境にある。
- ・女性の就業率は高く、保育所の数も多い。延長、病後児等の保育制度充実。低年齢で保育所入所のため地域の幼児は少ない。  
就学前児童6,721人のうち入所・入園率 0～2歳 26.9%、3～5歳 97.9%
- ・市長は健康対策に理解がある。2010年ビジョンの柱の一つとして「健康立市」を掲げる。

### 2. 計画のアウトプットの特徴（別紙）

### 3. 訪問調査でわかった策定プロセスの売り

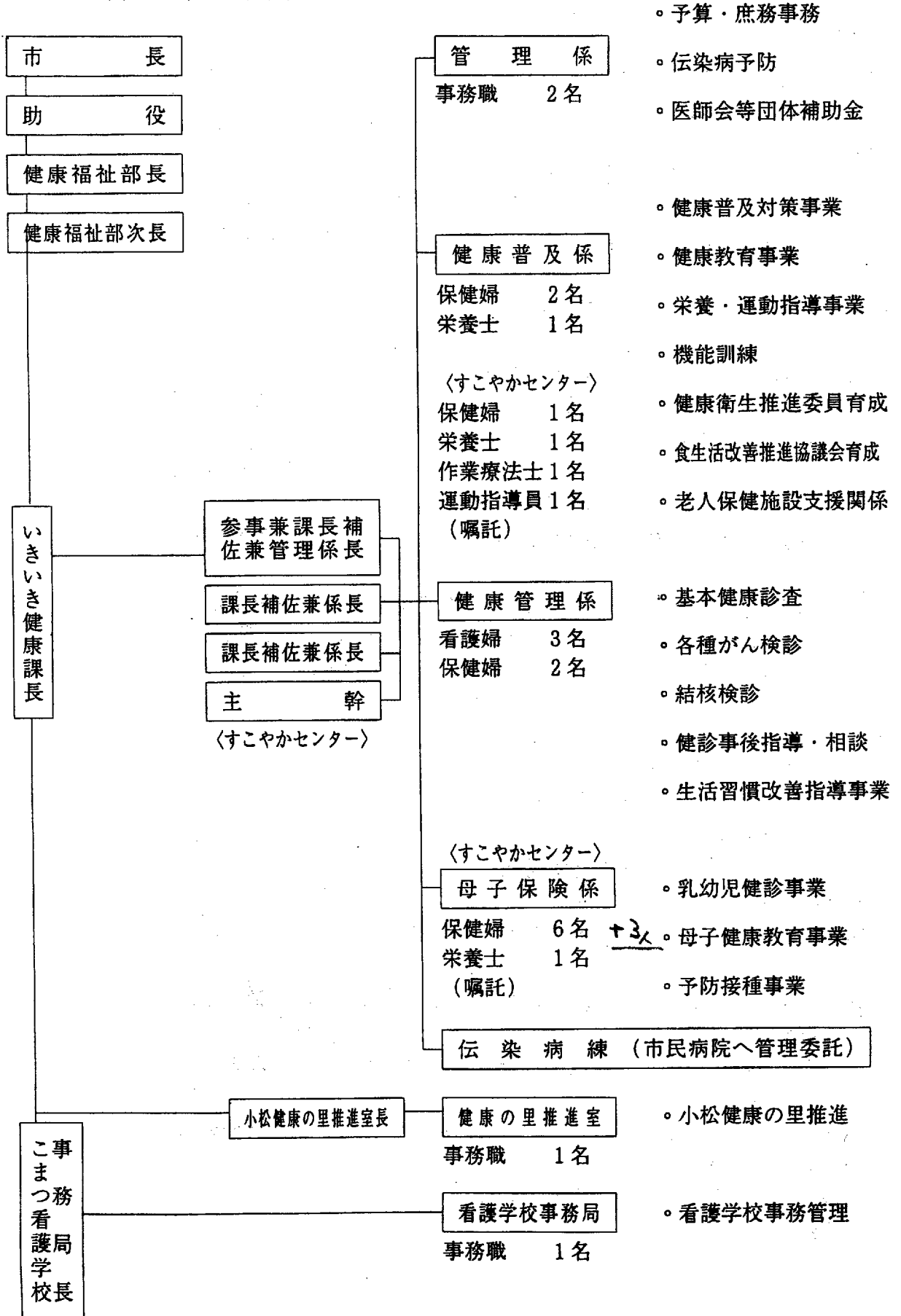
- ・市長、課長の理解の下、担当係長を中心として既存資料の整理、現状把握、ニーズ調査を行う方法で計画を作成
- ・キーパーソンは係長（主幹）で既に保健婦が計画策定にかかわった経験があり、計画の位置づけ、効果などについての認知があった。
- ・計画は保健所と市役所内の関係課、住民代表（母親）で策定し、それを健康づくり推進協議会で協議した。
- ・保健所が研修のテーマとして実態やニーズ把握の方法を取り上げ、若手の保健婦が研修しながら計画づくりの手法を学んだ。2・4・10ヵ月・1歳半・3歳児の父親と母親にアンケート調査
- ・計画書の中で今後の見通しを示し、担当する課を明確にした。

### 4. 各策定段階での促進要因

- 1) 準備段階、合意形成
  - キーパーソンの経験・認知と企画力
  - 保健所の理解、協力
  - 自主グループリーダーの母親代表としての参加
- 2) ニーズ把握
  - 保健所の研修を若手の研修として利用し、研修を実務につなげた
- 3) 計画化
  - 計画策定委員会で策定の後、健康づくり推進協議会での協議、議会へ提出
- 4) 施策の実現
  - 計画書の事業一覧表で各事業の今後の見通しを示し、どこの課で担当するか明確にした。
- 5) 住民参加
  - 育児熱心でしっかりとした考えを持った自主グループリーダーの母親を見いだしていた。
- 6) 保健所の役割
  - 計画づくりの手法についての研修の実施、
  - 評価会議

# 〔Ⅲ〕 事務の機構

(平成7年4月現在)



小松市健康づくり推進協議会名簿

平成8年度

	役員名	氏名	備考
委員	小松市医師会長	川北正	
〃	小松市食生活改善推進協議会長	高野美津子	
〃	小松市議会福祉文教常任委員	長田孝志	
〃	石川県歯科医師会小松支部長	野田浩平	
〃	石川県薬剤師会小松能美支部長	正木謙二	
〃	小松労働基準監督署長	日比野雅春	
〃	小松市社会福祉協議会長	木崎馨山	
〃	小松市町内会長連合会長	嵐重隆	
〃	小松市公民館連合会長	神田淳一	
〃	小松市老人クラブ連合会長	久木孝作	
〃	小松市校下婦人会連絡協議会長	松岡幾	
〃	小松市健康衛生推進委員会会長	島多健一郎	
〃	小松市民生委員婦人部長	貝野ミヨ子	
〃	小松市教育委員会教育長	矢原珠美子	
〃	小松市中学校長会長	橋本浩	
〃	小松市小学校会長	酒井元比古	
〃	小松市民病院長	矢吹俊彦	
〃	小松市健康福祉部長	秋田武夫	
参与	小松保健所長	水腰久美子	

## 第5章 母子保健施策の体系

### 1 事業の総合目標

- 安全な妊娠，出産の確保（保健，医療）
- 健康的で安心して子育てできる環境の確保（保健，福祉，女性施策，教育）
- 個人の健康状態に即した施策の推進（健康から障害まで）

### 2 事業展開の重点事項

#### (1) いのちの大切さや子育てについての意識を高める事業の展開

育児力をたかめる，交流事業，親が親として育っていくための事業

#### (2) 相談体制の充実

訪問，相談，子育てグループ支援

#### (3) 母子保健事業の充実

地域保健法と母子保健法の目的，社会の変化に即した子育て観や健康問題対策  
健康診査の充実，疾病構造の変化に伴う予防対策

#### (4) 働く男女の増大に対応できる子育て支援

父親の育児参加，職域への子育て支援の働きかけ，仕事と育児の両立を考えに  
いれた育児支援

#### (5) 母子保健，医療，福祉に係る分野の連携システムづくりの充実

情報交換，キャンペーン，個人ケアの連携（就学時に連携），相談システム，  
学校保健との連携

## 第6章 母子保健施策の概要

母子保健施策の体系を基本に、子どもと家庭・地域を取り巻く現状、子ども・母親の健康に関するサービスの現況、乳幼児の父親・母親の母子保健事業に関するニーズ調査から母子保健事業の実施目標を定め、健やかな子どもを生ま育てるために、思春期・妊娠・出産・育児・母性の健康づくりに至る一貫した母子保健事業の実施を、平成9年度から13年度の5年間に段階的に推進する。

### 1 母子保健事業実施目標

#### (1) 思春期・青年期

命の大切さ、母性・父性の育成、青少年期からの健康づくり意識啓発を推進する。

思春期における保健福祉体験事業は、学校と連絡を密にし拡充する。なお、若い世代から健康づくりに重要なボーンピークアップ事業を実施する。

若い世代対象の事業実施は、従来の地域を基盤にした方法での事業推進は困難であり、職域や短大等若者が多い組織や関係機関へ働きかけ推進する。

#### (2) 妊産婦

健康な子を生ま育てるための妊娠、出産の知識普及と健康づくり、健康診査の徹底、母乳育児推進の保健指導をする。

妊娠期から親としての意識を高めるための内容を盛り込んだ母親教室、父親の育児参加啓発、パパの育児教室などを実施していく。

#### (3) 乳幼児

乳幼児健康診査の徹底を図り、乳幼児の心身の発達に応じた親のかかわりや、安心して子育てができるよう支援する。また、総合的、継続的な支援を推進するため関係機関と連携し、ネットワーク化を推進する。

乳幼児健診、相談は参加率が高く、母子保健事業の最重点事業であるが、異常発見のスクリーニング、子育て支援の場として健診内容、やり方の工夫をする。

ニーズ調査によると、1か月から2か月の乳児の母親の育児相談、家庭訪問の要望が高く、育児相談事業、家庭訪問事業を実施する。

すこやかセンターでは、市が実施する母子保健事業を実施しているが、母親グループが自主的に教室を開催したり、仲間づくりをする場として利用拡大し、その支援をする。

#### (4) 学童

就学にむけての適切な情報交換をし、さらに、障害のある子の積極的な健康づくりのための運動教室等をする。

#### (5) 働く女性

働く女性の子育て支援に、育児情報の提供、電話による育児相談、土曜日の子育て相談開設、こころの相談について検討する。

## 2 専門部員から提案された事業

- (1) こころの健康づくり啓発
- (2) 職域子育てマニュアル配布、キャンペーン
- (3) パパ・ママセミナー
- (4) 父子手帳交付、お父さんの子育てマニュアル作成
- (5) 子育て出前講座
- (6) 障害のある子どもの健康づくり
- (7) こころの相談
- (8) 慢性疾患の子どもの継続ケア（家庭訪問）
- (9) 親子交通安全教室
- (10) 子育てグループ支援
- (11) 核家族母親交流の場所設置、機会の紹介
- (12) 母子登山、野外炊飯、ハイキング
- (13) 相談事業ネットワーク
- (14) 母子保健関係者の研修、連絡会

以上の提案された事業のほかに、地域メディアで子育て情報発信、ベビー用品レンタル制度、公立病院小児科の保育の場所設置、父子医療制度の設置等意見があり今後検討したい。

3 事業一覧

〈実施区分〉 新規——新たに実施する事業で概ね実施可能年度  
 拡充——既に実施しているが拡充を図る事業  
 継続——今後も現在の内容を継続する事業  
 記入なし——新規事業等に提案された事業

☆生命の大切さ・子育てについての意識啓発

事業名	事業内容	担当課等	
		種	別
中学生保健 体験学習	思春期に乳児とふれあいを体験し、母性、父性の涵養を図るとともに、命の大切さについて教育する。 ①対象 市内中学生（2校程度にぶよかけ） ②開催回数 年1回（2回シリース） ③場所 すこやかセンター	子育て課 新緑組	○
パパ・ママ セミナー	初妊婦とその夫、新婚カップルを対象に、乳幼児とふれあいや体験を行い、父親、母親らしさを思いやる心などについて学習する場を提供する。 ①対象 初妊婦とその夫、新婚カップル ②会場 すこやかセンター	子育て課	10回
父親の育児 啓発事業	父親の育児参加を促進するための啓発に、パンフレットやお父さんの子育て手帳の配布、マンツーマン作成の夫 ①対象 妊婦の夫 ②実施方法 パンフレットやマニアルの作成とその配布、職域への働きかけ等 パパの育児教室開催等	子育て課 新緑組	○
母乳育児推 奨キャンペーン 母乳推進の 保健指導	母乳育児を推進するために、地域、職域等あらゆる機会をとらえて啓発し、母乳分泌をよくする保健指導を充実する。 ①対象 妊婦、職域等 ②実施方法 母乳推進のパンフレット作成・保健婦、助産婦による妊産婦保健指導	子育て課	9+
働くママの ための子育て 情報発信 事業	仕事と子育ての両立をしやすいとするために、育児や保育所の情報をまとめ、PRする。更に、ニーズ調査等も行う。 ①働くママのための子育てマニアル作成と配布 ②働くママを対象にしたニーズ調査や職域の環境調査及び啓発活動の実施。	子育て課 新緑組	○
地域子育て 支援事業	母親が子育てを楽しいと感じながら、親としての子育ての役割を果たしているように、母親を支援し、そのための地域づくりやボランティア育成をする。 ①母子・在宅の保健婦、助産婦、栄養士に母子保健研修を行い相談員育成をする ②地域育児教室 ・母親として仲間づくりを目的に実施する地域、グループの育児教室支援	子育て課 新緑組	○

事業名	事業内容	担当課等	
		種	別
家庭教育学 級開催事業	③子育て出前講座 ・地域で子育てについて講座を開催する ④おこふれあい村 ・親子でのキャンプ体験活動（1泊2日）を通じて、親子それぞれの再発見により親密な家族関係、健康づくりを豊かにしていくもの。 ⑤世代交流、核家族母親交流事業	子育て課 新緑組	9+
	乳幼児・児童をもつ親等を対象とし、家庭・地域・学校が一体となって健全育成を推進するための家庭教育に関する総合的な学習を行う。 ①対象 地域の子ども ②会場 2保育所 ③開催回数 8回シリース ④実施方法 保育所で実施	子育て課 新緑組	○



# 母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (石川県小松市)

記載担当者名 ( )

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
<p>【Ⅰ】事例の概要</p> <p>◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口、地理的条件、社会資源等</li> <li>・市町村の組織体性等</li> <li>・住民組織の成熟度等</li> <li>・県の取り組みと保健所の特徴</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口108,900面積371.13km<sup>2</sup> 日本海岸から山間地まで広範囲に集落が点在。自然に恵まれる。小松空港、JR小松駅、北陸自動車道等交通アクセスが整っている。自家用車が中心で公共交通はあまり使われない。</li> <li>・医療機関が多く、医療を受けやすい環境にある。</li> <li>・女性の就業率は高く、保育所の数は多い。延長、病後児等の保育制度充実。低年齢で保育所入所のため地域の幼児は少ない。</li> <li>・保健婦が健康文化創造都市計画策定(平成5年)および老人保健福祉計画策定にかかわっていた。</li> <li>・市長は健康対策に理解がある。2010年ビジョンの柱の一つとして「健康立市」を掲げる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所の担当課長がすでに計画した事例を紹介</li> <li>・地域保健従事者研修会において母子保健事業への取り組みが課題としてあげられる。</li> </ul>
<p>【Ⅱ】計画策定の準備</p> <p>◆計画策定の目的、策定の手法等の</p> <p>合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等</li> </ul> <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別調整、会議、研修・勉強会等</li> </ul> <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課長(事務2～3年ごとに異動)と母子保健係長で計画づくりの進め方のアウトラインを話し合い、庁内関係課長に協力を依頼。</li> <li>・保健所長、次長、保健婦の担当課長に計画策定について協力を求め、合意を得た</li> <li>・計画策定タイムスケジュールの作成</li> <li>・計画策定委員会設置要綱策定準備会を庁内関係課長、保健所普及課長を招いて開催。検討を実施。</li> <li>・委員会設置要綱を策定し、専門部会、委員会を開催。委員会には母親代表に参加してもらう。</li> <li>・医師会などは健康づくり推進協議会で意見反映を図り、策定委員には入れない</li> <li>・小松市の2010年ビジョンの実実施計画としての整合性を配慮した。</li> </ul> <p>①合意形成のキーマン 係長(主幹)</p> <p>②範囲 保健所、他課</p> <p>③合意形成の手法 保健所：研修、会議 他課：個別調整</p> <p>④策定体制 保健所、児童家庭課、保健指導室、女性政策課、学校教育課、保健体育課、いきいき学習課、いきいき健康課、母親代表 事務局：いきいき健康課</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児に熱心でしっかりした考えを持っている母親代表の声を反映できるよう、計画づくりへの参加を自主グループリーダーの母親に求めた。</li> </ul>	
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算</li> <li>・人的体制</li> <li>・時間の確保</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務と計画策定の両立の時間確保をはかった。</li> <li>・計画冊子は手作りで予算かけず。</li> <li>・時間外勤務手当の確保</li> <li>・会議中の母親の子供の保育</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健従事者研修会のテーマに母子保健を取り上げた。</li> </ul>
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キーマン、範囲、手法</li> </ul> <p>検討体制(【Ⅱ】と同様)</p> <p>②具体の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存資料の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健係で分担して既存資料の整理、現状把握を行い、計画策定委員会専門部会の第1回に資料を示して説明した。</li> <li>・ニーズ調査は保健所の地域研修テーマに取り上げ、研修を実務に直接役立てられる内容として進めた。(1年目保健婦の研修も兼ねて実施)日頃の事業がニーズの受けとめになっている。</li> </ul> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握 実態：各課の持っている資料をスタッフが出向いて収集 ニーズ調査：生後2か月までの児、4ヶ月および10ヶ月児相談対象、1歳6か月児および3歳児検診対象の父親と</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在育児をしている当事者である父親、母親を対象にアンケート調査を行った。</li> <li>・実態調査やニーズの把握のためのアンケート調査の手法について地域研修として指導。</li> <li>・人口動態等の資料提供</li> </ul>

<p>活用 ・住民等との対話 ・アンケート調査</p>	<p>母親それぞれにアンケートを実施</p>		
<p>【IV】計画（施策）化 ① 具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成  ② 内容 ・ 具体の目標、数値目標 ・ 評価指標</p>	<p>① 具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成 ・ 母子保健計画専門部会 4 回、母子保健計画策定委員会 2 回 ・ 小松市健康づくり推進協議会を開催し、計画原案について協議した。 ・ 計画書の最後の事業一覧表で各事業の今後の見通しを示し、どこの課で担当するか明確にした。  ② 内容 具体の目標、数値目標 ・ 総合目標、事業展開の重点項目の設定 ・ ライフステージ別の実施目標 ・ 新規事業については開始年次の設定 ・ 推進体制の明示  (問題点) ・ 保健の専門性を特徴づけて具体的に施策化すること (母乳の推進) ・ 子育て支援チームの中で、関係する機関と連携を保ち、効果的な施策展開を図ること (子供の発達を理解して事業にかかわる)</p>	<p>・ 育児グループの自主活動が進められている。</p>	<p>・</p>
<p>【V】計画の具体化 ・ 9 年度予算への反映  ・ 計画の進行管理 組織体制  ・ 住民、関係機関への周知等</p>	<p>・ 県からの母子保健移譲業務の100%実施 (予算規模の拡大)  ・ 母子保健担当の保健婦の充実  ・ ニーズ調査結果のエキス部分を広報「こまつ」に掲載  ・ 計画を市議会福祉文教委員会に提出  ・ 計画を関係課に配布  (反省) P R 版を作ればよかった</p>	<p>・ 育児グループ活動の活性化</p>	<p>・ 母子保健評価会議を開催し、地域の母子保健の向上とシステムの向上に努めている。 ・ 企画調整課、地区担当保健婦が進捗状況等をみている。</p>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ (キーワードも記入)</p>	<p>(特徴) 現状把握とニーズ調査、日頃の事業展開の中で得た市民の声をまとめ実現可能な計画とした。 (取り組み) 若い保健婦スタッフが他課や関係機関へ出向き、現状を把握するとともに資料づくりを行い、会議録から次回の会議までに課題解決を図るなど、計画策定の手法を学んだ。 (満足度) 予算と時間が合い中から工夫して仕上げた。 (要望) 母子保健計画を老人福祉計画なみに国・県で P R し、位置づけを明確にし、エンゼルプランとの違いを周知されたい。</p>		